

### 救急医療情報キット配布事業の実施について

菅野 恭子



〔質問〕高齢者の一人暮らしや高齢者世帯等が増加する昨今、多くの自治体で救急医療情報キット配布事業を実施している。

自治体が定めたマーク入り容器に、常時服用薬・持病、かかりつけ医、保険証・診察券写、連絡先等の情報を入れ冷蔵庫で保管、更に玄関の内側、冷蔵庫ドアに同様のマークステッカーを貼り、緊急時、救急隊員が適切な対応のためにその情報を活用できるものであるが、本市においても、高齢者災害時要援護者世帯を対象に実施すべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】今後、高齢者保健福祉計画、第5期介護保険事業計画を平成23年度で策定するが、その中で関係機関、団体と連携して検討を進めていく。

〔質問〕日中の高齢者世帯や健康不安者についての検討もあるのか。

〔答弁〕【市長】検討していきたいと思う。

〔質問〕住宅用火災警報器の設置促進について

〔質問〕住宅用火災警報器の設置が義務化されているが、昨年3月現在本市の設置有無確認率は53%で、白石地区は28.4%、福岡地区は65.9%と、他地区に比べ低い。設置促進を早急に行っていくべきではないか。

〔答弁〕【市長】今後も広報しろいしや春・秋の火

災予防運動時に配布するチラシ等で設置の重要性を知らせ、向上に取り組んでいく。

〔質問〕全庁挙げて火災から命を守る取り組みをすべきであり、例えば福祉事務所では、高齢者一人暮らしの方と接触するサービスメニューが多くあるが、その際に設置啓蒙・促進をすることが大事ではないか。

〔答弁〕【市長】その件は本当に大切だと思う。色々な面で今後もPRを進めていく。

〔質問〕心身の機能低下している方々や高齢者世帯に、経済的支援を行う自治体もあるが、本市で検討することはしないのか。

〔答弁〕【市長】自分の家庭・自分の身を守るのは自助というのが、大きな部分であると思う。

〔その他の質問〕

○犬の登録・予防接種の向上・飼育マナー等の観点から「愛犬住基カード」を発行してはどうか。

### 施政方針と市政の重要課題について

水落 孝子



〔企業誘致について〕

〔質問〕最重要課題と位置つける企業誘致が決まっていないのは、面積の問題なのか、価格の問題なのか。

〔答弁〕【市長】企業が何を求めているかで違いますが、投資計画と合わないことが一番の問題である。

〔質問〕それでは、今後の見通しは小さいと思われ、県への職員派遣で企業誘致できるのか。

〔答弁〕【市長】すぐに決まるとは考えていない。今までの積み重ねプラス県とのパイプを太くするのがキーポイントの作戦である。

〔子ども医療費助成制度について〕

〔質問〕対象年齢を小学校卒業まで無料にする場合、必要な予算はどれほどか。

〔答弁〕【課長】入院で1千935万3千円、外来で5千800万円である。

〔質問〕所得制限は撤廃しないのか。

〔答弁〕【市長】今後の財政状況を踏まえた上で検討したい。

〔地域医療の確立について〕

〔質問〕地域医療の確立とは医療・保健・福祉の切れ目のない連携システムが必要と考えるが、市長の見解は。

〔答弁〕【市長】そのとおりで、平成20年度から刈田病院内に保健・医療・福祉推進会議を設け、1市2町の病院や介護施設が緊密な連絡調整を図っている。

〔質問〕市民から問題点指摘もあるが、その会議はどの辺まで機能しているのか。情報の連携を進める部署はどこになるのか。

〔答弁〕【市長】中心的な役割は刈田病院の医療相談室である。

〔質問〕刈田病院への財政支援はどこまでも可能か。限界はないのか。

〔答弁〕【市長】刈田病院を守る事は私の公約であり、市民の安全安心を担保する最優先課題である。財政状況に応じて適切に対応する。

〔国保の広域化について〕

〔質問〕国保の広域化の目的は何か。

〔答弁〕【市長】目的は年金生活者・失業者など低所得者が多く、収納率低下など、国保の構造的課題の解決である。

〔質問〕それはどこの市町村でも同様で、県に一つにまとまれば、何故解決できるのか。

〔答弁〕【市長】これは国策である。〔質問〕国策で国民皆保険制度を崩す方向に行くのではないか。〔答弁〕【市長】皆保険が崩壊しないようにするためであるが、今後頭が痛い問題である。